

事例 No.	51	人口規模	80万人以上	地域ブロック	東海	事業タイプ	体験	事業主体	NPO 法人
事業名	乳幼児とのふれあい体験								
実施地方公共団体名	浜松市(静岡県)								
特徴・ポイント	小学生・中学生に乳幼児のとのふれあいの場をつくる。中学生はイベント方式で、地域の乳幼児を育てている親子に来てもらい、ふれあい体験を行う。また、小学生には、月に1回、同じ親子に来校してもらい、同じ生徒との接触を10ヶ月連続で行う。これにより、4か月児、5か月児だった、乳児が歩きはじめるまでを観察することができ、ふれあい体験の質・量ともに深められる。								
事業のねらいと内容	<p>【ねらい】 少子化が進み、親になり子どもを産むときになって初めて赤ちゃんに触れる親も多くなってきている。このため、赤ちゃんに慣れていない親が困難な育児をせざるを得ない状況が発生しやすくなっている。これらの状況から、小学生・中学生の段階で、赤ちゃんとのふれあい体験を行い、親になるための準備教育としての体験を行う。</p> <p>【内容】 イベント方式 …… 中学校での学年単位としたふれあい体験 継続方式 …… 小学校で毎月1回同じ親子が児童とふれあい、成長、発達を見守り親から子育ての苦労、楽しさについての話を聞く。</p>								
導入・実施の背景・経緯 (事業の必要性)	小・中学生が子どもや家族の大切さを理解し、親になるための準備教育をしていこうという民間の活動を、平成17年度から市の事業としてNPOへ委託し、実施している。				導入・実施に際して苦労した点				
事業の効果	生徒にとっては、赤ちゃんのかわいらしさを理解する機会となり、自分が育てられたことを振り返り、親との関係改善に役立った。地域の住民が、赤ちゃんを学校に来てもらうことに協力していただいた結果、親子と、地域の住民、生徒が知り合う機会となり、体験後、挨拶が始まるなど、地域の子育て支援の機運の醸成に役立った。				実施にあたってのネックをどのように解決したか				
事業のアピールをどのように行ったか	地域へのきめ細かなちらしの配布等を行った。また、実施状況を地元のマスコミ等で取材、放送され、事業の取組のPRになった。				体験学習の当日、生徒と、親子を見守る役割のスタッフが不足している スタッフ養成講座を実施し、担当者を増やしていった。 赤ちゃん体験で、自分の幼児期の記憶がよみがえり混乱する生徒がいた スクール・カウンセラー等の心理専門職の協力を得て、見守りをした。				
必要な協力先・実施主体とその確保策	(必要な協力先) 地域の民生委員、自治会、PTA等 (確保策) 説明会を複数回行い、理解を深めるようにした。				参加親子の数の調整が難しく予算内でのやりくりが大変であった 実施校からの協力を得ることで、乗り切った。 学校・地域の理解・協力が得られにくい地域があった PTA、自治会、民生委員などに説明会を行い、理解を得ていった。				
概算事業費 (千円/年度) 平成18年度予算	1,638千円 <内訳> 国庫補助金:819千円				問い合わせ先		所属部署:浜松市こども家庭部子育て支援課子育て情報センター TEL:053-457-3415 FAX:053-457-2901		